

魅力が  
いっぱい  
大学も  
街も

特集1

「自らの力で未来を切り拓く」  
人材教育をめざす

国立大学法人 弘前大学理事(教育担当)・副学長 伊藤 成治

特集2

ブナの森のメッセージを未来へとつなぐ  
「白神自然環境研究所」の取組

白神自然環境研究所 副所長・教授 石川 幸男

「日銀グランプリ」弘前大学人文チーム  
2年連続決勝進出!

卒業生紹介/デザインスタジオ グリーンワークス 代表

大澤 泰智さん(人文学部卒)

# Contents

- 01 表紙の顔/川口 雅生さん(教育学部)・赤坂 理菜さん(教育学部)
- 02 キャンパスツアー・WEBリニューアル
- 03 特集1/「自らの力で未来を切り拓く」人材教育をめざす  
国立大学法人 弘前大学理事(教育担当)・副学長 伊藤 成治
- 07 特集2/「白神自然環境研究所」の取組  
白神自然環境研究所 副所長・教授 石川 幸男
- 09 卒業生紹介/  
デザインスタジオ グリームワークス 代表 大澤 泰智さん(人文学部卒)
- 11 学生活動/「日銀グランプリ」弘前大学人文チーム2年連続決勝進出!
- 12 HIRODAI TOPICS 一ひろだいトピックスー

- 1. 『大学生観光まちづくりコンテスト青森ステージ』ポスターセッション優秀賞
- 2. 第16回弘前大学総合文化祭『It's HIRO TIME』を開催
- 3. 「ホームカミングディ2016in弘前大学」を開催
- 4. 教育推進機構 小磯重隆 准教授 日本学術振興会より 平成28年度「科研費」審査委員表彰
- 5. 「第2回弘前大学附属図書館POPコンテスト」表彰式を開催
- 6. 医学部附属病院にて弘前保健所合同MERS患者受け入れ訓練を実施
- 7. AO入試1合格者の入学前交流プログラムを開催
- 8. 弘前大学・弘前市「国際交流会」及び本学留学生と弘前商工会議所経済人との懇談会を開催
- 9. 人文学部の授業科目で「県知事の特別演習」

子どもたちに青森の  
魅力を伝えたい!!!

青森には絶景スポットが  
たくさんあります!!!



## クローズアップ/ 表紙の顔



私立青森明の星高校出身  
教育学部2年学校教育教員養成課程  
赤坂 理菜さん



青森県立三本木高校出身  
教育学部2年生涯教育課程  
川口 雅生さん

### Q1 弘前大学を選んだ理由は?

私の将来の夢は生まれ育った大好きな青森で教員になることです。青森にいて、私がまだ知らない青森の魅力を知り、子どもたちに伝えていきたい。そして実習を通して大学生のうちから子どもたちとふれあいたい。これらのことを実現できるのは弘前大学だけだと考えたからです。

### Q2 弘前のよいところを教えてください

春は満開の桜、夏にはねぶたまつり、秋は色とりどりの紅葉、冬は雪灯籠。四季折々の景色を楽しめる街に弘前大学があります。そんな歴史と伝統のある街で暮らしながら、学ぶことができるのは弘前大学だけです。

### Q3 卒業後の目標、在学中にやりたいことを教えてください

美味しいものを食べたり、きれいな景色を見たり、テーマパークに行ったり…長期休暇を使って旅行したいです。去年は大阪と京都に行ってきました!

### Q1 弘前大学を選んだ理由は?

地元青森が好きだからです。県内の大学に進学しなかったのと、それに加えて弘前大学が国立大学であるということが一番大きな理由です。

### Q2 弘前のよいところを教えてください

弘前公園の満開の桜や岩木山の雄大な景色は絶景で、ここだけでしか見ることのできない景色だと思います。写真撮影が趣味なので、一眼レフカメラを持ち歩いては弘前のいろいろな場所を撮っています。

### Q3 卒業後の目標、在学中にやりたいことを教えてください

人脈を広げたいです。大学の仲間や地域の人々、とにかくいろんな人と関わってみたい。そうすることで、自分の視野も広がって必ず成長できると考えています。



**NEW**



<http://www.hirosaki-u.ac.jp/campus/>

## 弘前大学キャンパスツアー ウェブサイトリニューアル キャンパスツアーって何？

弘前大学キャンパスツアーは、約1時間30分〜2時間で、学生スタッフが弘前大学（文京町キャンパス）の施設をご案内するものです。少人数のグループで学内を見学しますので、在学生によるリアルな大学生活もお伝えしています。ツアーの後は受験のアドバイスやキャンパスライフなど、時間の許す限りなんでも相談・質問をしてください（行事等の事情により、見学いただけない施設もあります）。気になる方は、今すぐ左のサイトにアクセスを！

## 誰でも参加できるの？

弘前大学に進学を目指す高校生及び保護者の皆様、そして還暦を迎えた卒業生の方まで、どなたでも参加可能です。キャンパス内を歩き、弘前大学の「学び」の雰囲気を感じたり、在学当時の弘前大学を思い出していたりなど、楽しみ方は様々です。

地域と共に発展し続ける弘前大学の「今」を是非感じてください。



### コース例

- ① 弘前大学創立50周年記念会館
- ② 保健管理センター
- ③ 旧制弘前生青春之像
- ④ 附属図書館
- ⑤ 教育学部
- ⑥ 資料館
- ⑦ 体育施設
- ⑧ 理工学部
- ⑨ 農学生命科学部
- ⑩ 創立60周年記念会館（コラボ弘大）
- ⑪ 総合情報処理センター
- ⑫ 大学会館
- ⑬ 人文社会科学部
- ⑭ 総合教育棟
- ⑮ 旧制弘前外国人教師館（弘大カフェ）

## 歴史探訪コース

※WEB限定

弘前大学のキャンパスには歴史を感じさせる石碑がたくさんあります。今回のサイトリニューアルに際し、学内の歴史をめぐる石碑ツアーもご用意しました。その一部を紹介します。

現在、大学事務局、保健管理センター、創立50周年記念会館、附属図書館、教育学部、総合教育棟、人文社会科学部、第一体育館、大学会館のある敷地には、大正10年（1921）4月に開校した官立弘前高等学校がありました。

この記念像は、平成元年（1989）8月、旧制弘前高等学校同窓会が母校創立70周年を記念して建てたものです。台座中央には「弘高生青春之像」と刻まれ、その上に白線二本に大鷗の徽章の学帽をかぶりマントをもった学生服姿と、下駄をはいた袴姿の旧制弘高生2名が並んで遠くを臨む像が立っています。台座の左面には校歌1番の歌詞、右面には彫刻家 高橋 剛（恩賜賞、日本芸術院賞受賞者）にこの像の制作を依頼するに至った小野正文先生の撰文が刻まれています。

小野先生は、旧制弘前高校の卒業生で、太宰治とは学校の先輩として長く交友がありました。平成17年（2005）、長年にわたる



旧官立弘前高等学校創立70周年記念碑  
「弘高生青春之像」

太宰治研究を評価され、弘前大学から名誉博士号が授与されました。

（引用文献）

1. 『旧制弘前高等学校同窓会（編）』（2005）旧制弘前高等学校史、220
2. 本間正行（2004）『学園だよりキャンパス散策 弘前大学構内の記念碑』、142、34
3. 工藤睦男（2005）『弘前大学同窓会報』弘大「石碑を訪ねる」、6、6

この他、全部で26の石碑を詳しくご紹介しています。弘前大学の歴史の扉をあけてみてください。



国立大学法人 弘前大学  
理事(教育担当)・副学長

伊藤 成治

いとう しげはる



特集1

## 「自らの力で未来を切り拓く」 人材教育をめざす

国立大学法人 弘前大学理事(教育担当)・副学長 伊藤 成治

めまぐるしい社会の変化のなか、個人にとっても社会にとっても将来の予測が困難な時代を迎えています。さまざまな面で改革が必要とされ、教育もまたその改革と再生が求められています。このような時代にあつて、未来を見通し、これからの社会を担い、未知の時代を切り拓くことのできる人材を育成するため、弘前大学ではどのような教育を行っているのでしょうか。

伊藤成治弘前大学理事(教育担当)・副学長にお話を伺いました。

### 自ら考え、行動できる 人材を育む教育体制の確立

「弘前大学では、どんな人材育成をめざしていますか？」

「いずれ弘前大学を巣立ち、社会へ羽ばたいていく学生たちに、ぜひとも身に付けてもらいたいもの。それは、社会に出て困難にぶつかっても、たくましく乗り越えていける強い心、そして、自ら未来を切り拓いていく力です。」

そのためには、幅広い知識と教養を身に付けることはもちろんのこと、それらを現実社会のなかで生かしていくスキルも必要です。また、グローバル化が加速するとともに、世界規模の視点を持ちながら、同時に地域の未来を担っ

ていく人材の育成も求められています。

今、全国的に大学の「教養教育」が見直されていますが、これは社会人として世に出た時に、専門知識だけでなく自分で物事を考える力、課題を見出し解決に向けて対処できる力、「コミュニケーション能力」などの総合的な力が求められているからです。そうしたことから、弘前大学は社会のなかでたくましく生き、課題探求や問題解決に果敢に取り組んでいく人材を育てるために、平成28年度に学部・学科(課程)の改組を行いました。



地域学ゼミナール  
違う学部 of 学生がグループで討議



**弘前大学初の試み！  
総合大学の利点を生かした、  
学部横断型カリキュラム**

— 具体的に、どんな教育改革を行っているのですか？

文部科学省は、国立大学の機能強化を図るために、3つの重点支援の枠組を設けました。各大学は、「人材育成や研究を通して地域に貢献する大学」、「特定の分野ですぐれた教育や研究の拠点となる大学」、「世界トップ水準の教育や研究を目指す大学」の3つの枠組の中からいずれか1つを選択し、目標に向かつて取り組む必要性があります。弘前大学は、グローバルな視点で地

域課題の解決に取り組む人材を育てるため、「人材育成や研究を通して地域に貢献する大学」を選択しました。

平成28年4月には、「教員養成の質的充実」、「理工学系・農学系人材の育成強化」、「教育のグローバル化」を柱とした教育研究組織の再編を行いました。それに合わせ、教養教育も大幅に見直しを行いました。一番の目玉は、1年次の後期に必修となった「地域学ゼミナール」です。

これは、5つの学部・6つの学科の学生が、学部や学科をまたいで6人が1チームとなり、地域の課題解決などについてディスカッションするというもの。本学では初の試みとなります。同じ学部や学科には、どうしても同質の人が集まりがちです。年次が上がるほど、その傾向がますます強くなります。

しかし、そもそも社会は、年代も背景も異なる人たちが構成されており、さまざまな経験知を持った人と交流することによって化学反応が起こり、新しいもの、面白いアイデアが生まれてくるわけです。ですから、大学の教育においても、社会に出るまでの予行練習になればと思います。カリキュラムを導入しました。物事を違った視点であらゆる角度から掘り下げていくプロセスや、対話する力を育む機会になればと期待を寄せています。文理混合チームが互いに刺激し合いながら議論するのは総合大学ならではのメリットであり、非常に望ましい姿でもあります。私自身、

こうした経験をふまえて学生たちがどのように成長していくか、とても楽しみに感じているところです。

2年次以上でも、「学部越境型地域志向科目」を新設・必修化し、学部の垣根を越えた学びの場を設けています。また、入学から卒業までの「地域を志向したキャリア教育」にも力を入れていきます。

**「国際共通語」としての  
英語教育**

— グローバル化への対応は？

弘前大学では、平成28年度から「国際共通語としての英語教育」に取り組んでいます。私も海外に行くときよく感じるのですが、日本人は奥ゆかしいというか、外国人に対して積極的に話しかけることはしません。イギリス人やアメリカ人などネイティブ・スピーカーのような完璧な発音でスラスラ話さなくては...と、身構えてしまうかもしれません。実は英語はネイティブではない世界の多くの人たちが使っている言語です。ですから、文法的に間違っているのではないかと、伝わるだろうか躊躇するのではなく、「英語は国際共通語」と考え、意思疎通を図るためにどんな会話してみることが大切です。

グローバル化とは、決して英語が上手に話せることではありません。弘前大学には世界各国から来ている留学生もたくさんいるので、まずは、「コミュニ

ケーションをとってみよう」と前向きな姿勢で臨むことがグローバル化のスタートだと思います。教員たちにも、授業の一部分でもいいので英語で行ってほしいとお願いしており、少しずつ浸透してきています。

弘前大学は、平成29年2月1日現在、世界15の国と地域、33大学と大学間交流協定を締結しています。文部科学省が行っている留学促進キャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」にもこれまでに4人が採択され、海外留学を体験しています。若いうちに海外に飛び出し、さまざまな文化や歴史にふれ、新たな気付きや出会いを通じて成長し、広い視野を持って日本の未来を切り拓く人になってほしいと願っています。



ポルドー・モンテーニュ大学  
(フランス)にて留学生達と



「生き方教育」を通して描く  
一人ひとりの未来計画

「就職支援の取組について教えてください。」

弘前大学は、キャリア教育を1年次の後期から教養科目の必修にしており、さらに、それらを医学部も含め全学部共通で行っています。これは、ほかの大学ではあまり例がないことかもしれません。そのねらいとしては、1年次の早いうちから、「なぜ働くのか」、「なりたい自分とは」について考え、そこから「どんな職業に就きたいのか」、「社会に適應していくためには」、「そのためにどんなスキルが必要なのか」といった自分なりの未来計画を描いてほしいか



八戸市での就職懇談会

らです。

弘前大学では、キャリア教育の取組を、自分の人生の在り方を見つけ実現するための「生き方教育」と位置付けています。こうした理念に基づき、「就職支援センター」は平成28年4月、「キャリアセンター」に名称変更しました。キャリアセンターでは、キャリア教育の企画・運営及びインターンシップ、就職ガイダンス、業界研究、求人開拓及び情報収集など、さまざまなキャリア支援を行っています。

全国的に人口減少が進むなか、本県も若者の地元定着が課題になっています。県内には魅力的な企業がたくさんありますが、まずは、それを学生に知ってもらうことが必要です。そのため、弘前大学では、学生が地元の企業を訪問するバスツアーを開催しています。

また、昨年は、青森・八戸・弘前の3つの会場に県内の約100企業の採用担当者の方に集まっていただき、これまではない大規模な就職懇談会を行いました。一方で、インターンシップも積極的に行っていきますが、企業と学生のより良いマッチングの機会を増やすためには、もっと多くの受け入れ先と就業体験が必要だと感じています。ぜひ県内企業の皆さまにはインターンシップの受け入れにご理解・ご協力いただければと思います。

また、これから就活を行う学生にとって、志望する企業に弘前大学のOG・OBが勤務していることも心強

い要素のひとつでしょう。本学としても企業へ送り出す卒業生を絶やさないことで、後輩への就職支援へとつなげていきたいと思っています。



「キャリアセンター」キャリア教育を企画・運営

学生生活を多角的に  
サポート！

「学生に対する経済的な支援や、就学などに困難のある学生の支援について教えてください。」

弘前大学では、経済的理由により授業料の納付が困難で、かつ人物・学業ともに優れていると認められる学生に対して授業料を免除する支援制度があります。本学独自の支援としては、「岩谷

元彰弘前大学育英基金」、「ゆめ応援プロジェクト（入学料免除）」、「弘前大学生活支援奨学金」などです。奨学金制度では、「日本学生支援機構奨学金」のほか、地方公共団体や民間団体が行う奨学金制度もあり、本学が窓口となつている奨学金団体は約20団体あります。また、大学院には、「弘前大学大学院振興基金」をもとに学費を免除する制度



平成28年度岩谷元彰弘前大学育英基金採用者授与式

もあります。弘前大学は、学ぶ意欲のある学生を応援していますので、ぜひ積極的に制度を活用していただきたいと思えます。



障害のある学生を支援する学生特別支援室

次に、就学などに困難のある学生の支援についてですが、平成28年4月、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行されるのに伴い、本学では、それに合わせてハード・ソフトを整備して、障害を持った方ができるだけ安心して学生生活を送れるように配慮しています。

たとえば、一昨年からカウンセラーを2人体制にして、学生の身体面・精神面のケアにあたっています。また、

保健管理センターには臨床心理士の資格を持つ教員が2人おり、学生本人だけでなく、保護者の皆さまからの相談や、学生への適切な対応について教員からの相談も受け付けています。

身近にいる教員は、学生一人ひとりにきめ細かく気を配り、何か変わった様子があれば親身になってサポートにあたってほしいですし、学生の皆さんも、もし不安や迷いが生じることがあれば一人で抱え込まずに勇気を持って相談窓口を訪ねていただきたいと思えます。相談内容に応じてより適任な部署を紹介するなど、できるだけ早く問題解決ができるように対応しています。

### 弘前は学生に優しい街 果敢にチャレンジし続ける人に

—弘大の学生や、高校生に向けてメッセージをお願いします。

私が弘前大学に赴任したのは、平成2年4月のこと。4月初めに雪が降った日があつて、東京で生まれ育った私にとってはものすごい驚きでした。都内では、こんな日は学校が休みになるので、つきり休講になると思い大学に電話したところ、「えっ雪？それが何か？」みたいな感じで（笑）。雪道では転ぶし、官舎の水道は凍らせてしまっし、冬の厳しさをフルコースで体験した忘れられない年でした。

しかし、寒さとは裏腹に、人が温かい街だと感じています。赴任当時は、学園町の官舎に住んでいたのですが、私が30歳、妻が24歳と、学生と年が近かったこともあり、学生がよく官舎に遊びに来て一緒にお酒を飲みながらいろんな夢を語り合いました。

弘前は街の規模のわりに大学や専門学校が多いのも特長で、街全体が明るく若々しいイメージです。お店の人たちも学生に優しく、街全体で学生を応援している印象を受けます。買い物や食事をするのにもコンパクトで住みやすいですし、車で1時間も走れば、海にも湖にも白神山地にも行けてしまう。こんな恵まれた立地条件にある大学は、なかなかありません。弘前は、学ぶ場所としても暮らす場所としても魅力的な街ですので、きっと充実した学生

生活を送れるのではないのでしょうか。よく、大学がどういった人材を輩出できたかという出口論が論じられますが、教育は学生たちを何かの類型に決めようとするものではありません。学生たちは自ら成長します。最も大切なことは、本学が学生たちの積極性や知的好奇心を刺激し、その成長を促す「場」となることです。

弘前大学には、たくさんサークルや部活動もありますので、課外活動に積極的に参加するとともに、キャンパスを飛び出し、ボランティアなどの地域貢献、海外への留学などさまざまな人との交流を通じて経験を積み重ね、自分を磨いてほしいと思います。弘前大学での学びを通して、自分の可能性を最大限に引き出し、未来に向かって挑戦し続ける人になってくださることを期待しています。



国立大学法人 弘前大学理事(教育担当)・副学長

**伊藤 成治** (いとう しげはる)

- 平成12年4月 弘前大学教授
- 平成18年4月 弘前大学教育学部附属教育実践総合センター長
- 平成24年4月 弘前大学教育学部長・大学院教育学研究科長
- 平成26年2月 弘前大学理事(命:副学長)
- 平成28年2月 弘前大学理事(命:副学長)

白神自然環境研究所  
副所長

石川 幸男

いしかわ ゆきお

特集2

「白神自然環境研究所」の取組  
ブナの森のメッセージを未来へとつなぐ

白神自然環境研究所 副所長・教授 石川 幸男

1993年12月、鹿児島県屋久島とともに日本で初めて世界自然遺産に登録された白神山地。しかし、地球温暖化が進み、ブナ林の減少が懸念されるなか、ブナ林やそこに生息する生きものたちを観察記録することで把握し、白神山地の将来を見据えていく仕組み作りが求められています。

そこで、弘前大学は、2010年に「白神自然環境研究所」を設立。世界自然遺産地域に近い西目屋村川原平に附属施設「白神自然観察園」を設け、研究活動のほか、環境教育や地域貢献を行う拠点として活用しています。同研究所の取組と今後の展望について、副所長の石川幸男教授にお話を伺いました。

白神山地の研究に魅力を感じて弘前へ

— 先生のご専門は？

「私の専門は、森の成り立ちを解明すること。学生時代は、北海道大学大学院環境科学研究科で、北海道の森の生態を研究していました。台風などで樹木が倒れたり、病気や寿命などで枯死すると、森の中にギャップと呼ばれるすき間ができるんです。そこから次の世代を担う樹木が生長を始める。いわゆる世代交代ですね。1980年代は、日本中で多くの大学院生がギャップの研究に飛びついた時代でした。当時、私たちは学会に行くと、『ギャップ一派』と呼ばれていたんです(笑)」。

学位取得後、石川教授は、北海道や口

シアの沿海地方で原生林の調査にあたります。2000年以降、知床半島で世界自然遺産登録への気運が高まるなか、動植物の保全や、その生息域である森林や海、川の管理計画を科学的に検討する「知床世界自然遺産地域科学委員会」が発足。石川教授は、委員に委嘱されます。

「知床の調査研究を通じて世界自然遺産と関わるなか、弘前大学に『白神自然環境研究所』ができること知り、興味を持ちました。当時は、北海道で短大の教員をしていたんですが、2011年に弘前大学に赴任しました」。





**白神山地を舞台に、  
4つの分野の研究に取り組み**

白神自然環境研究所には、石川教授が所属する「植物部門」のほか、「動物部門」、「気象・地象部門」、「教育・文化部門」の4つの分野があり、それぞれが連携しながら研究活動を行っています。

研究所が調査を進めるなかで、2012年には、動物部門担当の中村剛之准教授が新種の「ガガンボ」2種を発見。現在、白神山地では約2200種の昆虫が記録されていますが、中村准教授によれば新種以外で記録漏れも多く、はるかに多くの昆虫がいると考えられるそうです」と石川教授。また、同研究所の兼任教授でもある農学生命科学部の殿内暁夫教授は、白神山地のブナやミズナラなどの落ち葉や樹皮から分離・選抜を行い、発酵食品に利用できる酵母を発見。2015年には「弘前大学白神酵母」の名称で商標登録を行いました。現在、りんご酢、シードル、日本酒などに活用され、本県の食産業分

野に貢献しています。

**「年輪」から森林の過去を  
ひもとき、未来を予測する**

石川教授の研究は、樹木の年輪の構成から世代交代の実態を再現し、森林の維持機構を明らかにすること。一般的に、年輪から思い浮かぶイメージは樹木の幹の横断面ですが、調査のために木を伐るといふこと？「ハハハ、さすがにそれはいいですね(笑)。こちらを見てください」。そう言って石川教授が指差したのは、まるで菜箸のような細長い木の棒。顕微鏡でのぞくと、棒には細かい線がびっしりと刻まれています。「これは、年輪のサンプル。『成長錐すい』というストローのように中が空洞になった金属製の細長い器具を使い、木の中心まで小さな穴を開けてコアサンプルを採取したものです」。年輪の幅は、その年の気候などに影響されることから、過去の気象観測データと照らし、関連性を解析していきます。特に20世紀後半に著しくなった地球温暖化が樹木の成長に与えた影響を調べることが、地球全体の環境変動を予測することをめざしています。

**研究データの積み重ねと  
環境教育で地域に貢献**

研究所では、白神山地の動植物相の解明と、今後起こると考えられる変化

を記録するために「白神標本百年保存プロジェクト」にも取り組んでいます。そんななか、昨年は、本県の野生植物研究の第一人者である細井幸兵衛氏が、約70年かけて採集した植物標本約32,000点を研究所に寄贈。本県の植物を網羅した大変貴重な資料となっています。

石川教授は、世界自然遺産の管理主体である環境省等が白神山地で行っているモニタリング調査を補完・拡大するとともに、周辺住民や白神の観光ガイドの皆さん、自治体等に自然情報を提供して地域振興にも結び付けたいと語ります。

「白神山地が、環境変動のなかで今どういう状況にあるかということを引きんと把握し、地域の皆さんにお伝えすることで、議論のベースとしていた

きたいですね。観察園は地域の皆さんに無料開放していますので、『環境教育』と『自然観察等』の場としておおいにご活用ください」と、石川教授。氷河期が終了したのち、今から約8,000年ほど前に白神に戻ってきたブナ林の歴史。過去、現在、そして未来。白神自然環境研究所の연구원たちは、今日もブナ林と生きものたちが織りなす壮大な命の輪に向き合っています。



成長錐サンプル：直径は5.15mm。左から右に向けて成長しており、年輪境界が12年分確認できる。細かく穴が見える部分は水分を通過する道管。



弘前大学白神自然環境研究所 副所長・教授

**石川 幸男** (いしかわ ゆきお)

昭和62年4月 専修大学北海道短期大学造園林学科 講師

平成 3年4月 同上 助教授

平成 9年4月 同上 教授

平成23年4月 弘前大学白神自然環境研究所 教授

専門分野：植物生態学、年輪生態学



デザインスタジオグリーンワークス代表

## 大澤 泰智さん（おおさわ やすとも）

今回ご紹介するのは、平成13年に弘前大学人文学部を卒業し、現在弘前市内でデザイン事務所を経営する大澤泰智さんです。弘前大学での思い出やデザイナーの仕事について伺いました。

### 学生時代の経験

学部生時代の思い出といえば「社会調査実習」です。座学だけではなく、現場で実際に起きていることを現地調査して考えるという授業は高校までになかった経験だったので新鮮でした。マタギ小屋に泊まったり、テントをバイクに積んで調査に行ったり、アポ無しで漁師さんの家に飛び込み、泊めさせていただいたことも。そういった授業や調査がきっかけで行動範囲が広がり、弘前が大好きになってそのまま住みついてしまいました。

### 大学院進学。そして・・・

調査が楽しくてもう少し研究を続けたという思いから大学院に進学しました。院生時代に思い出すのは、研究のことよりも先生たちと飲みに行ったりして議論して、打ちのめされたことばかり。先生たちが私たち学生に真剣に接してくれたことがありがたかったです。将来のことを全く

考えていなかった私ですが、報告書用に地図を作ったり写真を加工したりするためにグラフィックソフトを使い始めてから、先輩からウェブサイトの作り方を教わっていたこともあり、「デザイナー」という職業を意識するようになりました。映像やデザインのようなクリエイティブ職に就きたいという思いが次第に強くなり、そこでようやく将来について考え始めました。それから映像やデザインの勉強を始めて、30歳までにデザイナーとして一人前になり、35歳までに独立しようと考え、その思いを先生方に伝えて大学院を中退しました。

### 「デザイナー」への第一歩

まずはデザイン会社に就職しようと、地域を問わず就活に励みました。しかし、デザイン業界は基本的に実務経験者しか採用しないため、あっさり全滅。実務経験を積もうと、近い業務が多い通販会社に24歳で就職しました。そこではウェブ管理やカタログ制作・通販システムの構築などの仕事をし、3年の実務経験と個人的に作り貯めた作品を持って退職しました。その後、需要が増え始めていたウェブ系デザイン会社へデザイナーとして入社します。ウェブなら住んでいる場所は関

係なく勝負できると思い、弘前市内で就職しました。自分で案件をこなせる自信も付いてきた頃、個人での仕事も入り始めたので30歳で起業しました。

### 代表としての現在

想定よりも早く独立したので、起業に関する勉強は全くしていませんでした。「行ける」という自信と勢いで開業届を出しただけだったので、経理とか年度計画とか、当時は全く頭になく苦労しました。今考えると無謀ですよね。でも、考えすぎて動けなくなるよりは良かったと思っています。開業してからは、スケジュールとコストに対する考えは厳しくなり、そのせいで仕事を楽しくなくなるかなという不安も少しはありましたが、今でも変わらず、毎日仕事が楽しくて仕方がないです。



「りんご娘」さんのプロモーション動画を撮影する大澤さん



「弘前大学人文学部社会科学部社会調査実習」ホームページ



# Hiroasaki University [卒業生紹介]

デザインはクライアントがあつてはじめて成り立つので、コストに見合う成果を出すことが絶対条件です。その中でデザイナーとクライアントの思いが噛み合せて想定以上の成果が出せた時、良いデザインができたと感じます。気をつけていることは、表現技術や機材・ソフトウェアが日々更新されていく業界なので、まずは新しいものをなるべく早く試すこと。ただ、それをすぐに導入して真新しさを追うのではなく、咀嚼して自分の中に落とし込んで、表現の一部として自然に取り出せるようにしてから使うようにしています。また、人に何かを伝えるために作ることで、相手はパソコンやカメラではないということを意識しています。スキルやセンスはあくまでデザイナーの基礎でしかなく、

## 「デザイン」とは



校内イベントポスター

直接会って、話し、理解することを心がけています。

## 弘大・弘前の良さ

学生が社会に出て何かをしたり、意見したりすることに寛容で、温かく見守ってくれる優しさが弘前にはあります。そのおかげで、若いうちからチャレンジすることができました。誰かに教わることも大切ですが、自分で考えて行動すること、自分の青臭い考えをぶつけられる物怖じしない姿勢が身についたと思います。普段お会いするクライアントは、自分よりずっと年上で社会的地位もある方ばかり。多角的かつ客観的に物事を見て、萎



弘前大学特設ウェブサイト「WHY? HIRODAI, BECAUSE HIRODAI」フライヤー

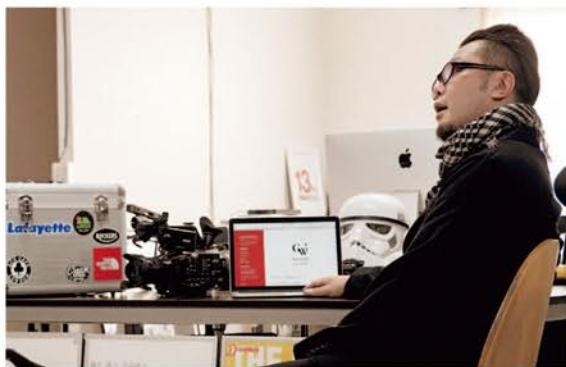
縮せずに接することが求められるこの仕事には学生時代の経験がとても役立っています。

## 今後の目標

弘前大学で育って、弘前の街と人に支えられて今の自分があるので、弘前にもっとリターンできる仕事を増やしていきたいです。「地方でこんなクールな仕事できるんだ!」、「むしろ弘前が最先端!」と思われる街にすることが目標です。自分自身のデザインもそうですし、ディレクションできる人材を増やすこともしていきたいですね。

## 弘大生へのメッセージ

大学の中でも外でもできることがたくさんあります。選択肢の多さを楽しんでください。勉強やサークル、バイト、恋愛も含め、どんな地域に出ているんなものに触れてください。大人たちにたくさん挑んでみてください。失敗しても学生時代は許されます。アイデアや思いを持って挑んでくる学生、大歓迎です。どこの会社に入るかよりも、どの講義が単位を取りやすいかよりも、どう生きて行くかを考えるための学びの場として、大学生生活をとことん楽しみ尽くしてください!



デザインスタジオ グリームワークス  
代表 大澤 泰智さん (おおさわ やすとも)

弘前大学人文学部人文学科卒。  
1979年北海道千歳市生まれ。北海道立北広島高等学校を卒業後、1997年に弘前大学に入学、2001年弘前大学卒業。在学中に行った社会調査実習を続けたいという思いから、弘前大学大学院人文社会科学部研究科入学。グラフィックソフトに触れるようになったことをきっかけに、「デザイナー」という職業を意識するようになり、その思いを先生方に伝え2003年大学院を中退。通販会社、ウェブ系デザイン会社を経て、2009年「デザインスタジオ グリームワークス」を起業。現在は企業のウェブサイト制作やイベント印刷物の制作、映像撮影・編集を中心に事業を展開。本学学長や学生、教員が「なぜ弘前大学を選んだのか、なぜ弘前大学を選ぶべきなのか」を伝える特設ウェブサイト「WHY? HIRODAI, BECAUSE HIRODAI」の撮影・編集も担当。



「日銀グランプリ」弘前大学人文チーム  
2年連続決勝進出！

昨年は初出場で最優秀賞、  
今年も準優勝の快挙！

平成28年12月3日(土)、大学生を  
主な対象とする金融分野の小論文プ  
レゼンテーションコンテスト「第12回  
日銀グランプリ」キャンペーンからの提  
言の決勝大会が日本銀行本店(東  
京都中央区日本橋)で実施されまし  
た。

この大会に2年連続で決勝進出し  
たのが、弘前大学人文学部(経済学  
コース)、金融論ゼミ(指導教員:飯島  
裕胤教授)の学生グループです。同ゼ  
ミでは、昨年も3年生チーム(現4年  
生)が北海道・北東北3県の大学とし  
て初出場し、最優秀賞に輝くという快  
挙をなしています。

そのプレッシャーをはねのけ、今年  
のチームも見事に決勝進出を果たしま  
した。全国の38大学、118チームの  
応募の中から、決勝戦に出場できるの  
はたったの5チーム。今年の弘大チー  
ムは、選り抜かれた強豪チームを退け、  
準優勝にあたる「優秀賞」を見事に勝  
ち取りました。

「日銀グランプリ」って何？

日本銀行は、学生が金融に関心をも

ち、わが国の金融の現状と将来につい  
て自分たちの問題として考えてもらう  
きっかけとするため、2005年度か  
ら小論文・プレゼンテーションのコンテ  
スト「日銀グランプリ」を開催していま  
す。このコンテストでは、小論文で予選  
を行い、そこで選ばれたチームが日本  
銀行本店で決勝を競います。決勝で  
は、まず、学生が日本銀行副総裁を始  
めとする審査員を前にプレゼンテー  
ションを行い、その後、審査員との質疑  
応答を行います。小論文の内容に加え  
て、プレゼンテーションおよび審査員と  
の質疑応答の内容を踏まえて審査が行  
われ、最優秀チームが選出されま  
す。

今年、本学の他に決勝に進んだの  
は、東京理科大学、学習院大学、東京  
経済大学、中央大学の4チームで、すべ  
て東京都内にある大学です。昨年度の  
優勝に引き続き今年度も受賞を果た  
し、決勝大会に進んだ唯一の地方大学  
として、弘前大学人文学部チームは大  
きな存在感を見せました。

地元に着した健康への提言

弘大チームの論文タイトルは「ソー  
シャル・インパクトが照らす未来へ健  
康が生み出す新たな収益フロンティア

の獲得」。学生チームは、今年度、企  
業の健康改善に関する地道な実地活  
動(青森県庁の委託事業)を行ってき  
ましたが、その活動を通して、企業での  
健康改善における重要な経済学的問  
題を発見し、同時に問題を金融的に解  
決する手法を考案しました。その内容  
を論文にまとめたものです。

審査員からは「中小企業の健康改善  
という、時代の最優先課題をとりあ  
げ、チャレンジングな研究を行って  
いる」との講評を受けました。「金融機関  
のリスクについて一層の検討があると  
さらに良くなる」とのアドバイスも頂  
きました。

3年の小原安珠(あんじゅ)さんは、  
「当日は緊張したが、審査員の方々が  
真摯に聞いてくれたので発表はしやす  
かった。発表時間が15分と短く、時間  
配分に苦慮した。審査員は金融のプ  
ロ、質疑応答では想定していなかった  
質問が多く、回答するのが大変だっ  
た」と決勝を振り返り、準優勝という  
快挙については、「コツコツ地道に調査  
したものが評価されて嬉しい。課題も  
明確になったので、改善して事業化ま  
でもっていききたい」と、今後の抱負を語  
りました。指導した飯島教授は「金融  
のプロからの厳しい質問は学生を一層  
成長させる。今回の日銀グランプリは、  
学生にとって大変貴重な機会だった。」  
とコメントを寄せてくれました。

2年連続の受賞は、弘前大学の教育  
活動が全国トップ水準にあることの証

でもありません。弘前大学は今後も、  
より良い教育を提供し、学生と共に  
進化し続けてまいります。



チーム全員で結果報告記者会見



決勝大会後、日銀副総裁らと記念撮影

## 『大学生観光まちづくりコンテスト青森ステージ』ポスターセッション優秀賞

平成28年9月6日(火)、全国の大学生が観光プランを競い合う『大学生観光まちづくりコンテスト青森ステージ』が開催され、県内外の大学から14大学35チームが参加しました。本学人文社会科学部からは「チーム弘前大学じゃいご娘」(代表伊東遥さん)が参加し、惜しくも本選進出は逃したものの、ポスターセッションでの最高賞に当たるポスターセッション優秀賞を受賞しました。

同チームは、田舎館村と黒石市のお米と歴史という2つの資源を活用し、両地域の滞在時間の増加を目指した観光プランを提案し、高い評価を得ての受賞です。今後、大学生のアイデアをさまざまな形で具現化し、一層の人材育成に取り組んでいきます。



「チーム 弘前大学じゃいご娘」

## 第16回弘前大学総合文化祭 『It, s H I R O T I M E』 を開催

第16回弘前大学総合文化祭を平成28年10月21日(金)から23日(日)の3日間にわたり、本学文京町キャンパスで開催しました。今年度のテーマ「It, s H I R O T I M E」は、弘前の「H I R O」と、英雄の「h e r o」を掛け合わせたものです。

オープニングフェスティバルでは、爽やかな秋空の下、集まった大勢の観客を前に、総合文化祭実施委員会委員長の佐藤学長が声高らかに開祭宣言し、華々しい幕開けとなりました。

期間中は、学生主体の模擬店でキャンパスは賑わい、日頃の研究成果を直接体感できる「サイエンスへの招待」をはじめ、様々な研究発表がありました。また、県内各地からの11チームが、華麗な演舞を披露した「よさこい弘大」といったイベントの他に、一般来場者が参加できる「大抽選会」など多彩な催しも行われました。



よさこいサークル「焰舞陣」によるよさこい

## 「ホームカミングデイ2016 in 弘前大学」を開催

平成28年10月22日(土)、弘前大学同窓会及び後援会のご支援を受け、「ホームカミングデイ2016 in 弘前大学」を開催しました。弘前大学の卒業生、修了生、そして在学生・教職員のご家族の方々に、弘前大学の教育・研究活動を知っていただくことで、相互交流と親睦を深めるためのイベントで、今年で第2回目となります。

はじめに、佐藤学長から弘前大学の近況について報告があり、定員を上回る89名の参加者が、地域活性化の拠点として発展し続けている弘前大学の「今」に聞き入りました。また、当日は総合文化祭の開催期間中でもあり、参加者のために設けられたテラス席から「よさこい弘大」を見学し、若い学生達の沸き立つような演舞に寒さを忘れて見入っていました。

午後からは、遠藤前学長による「キャンパスツアー」が行われ、普段は聞くことができない弘前大学の歴史をたどる貴重な講話に、参加者からは感嘆の声を上げながら先達の偉業に耳を傾けていました。



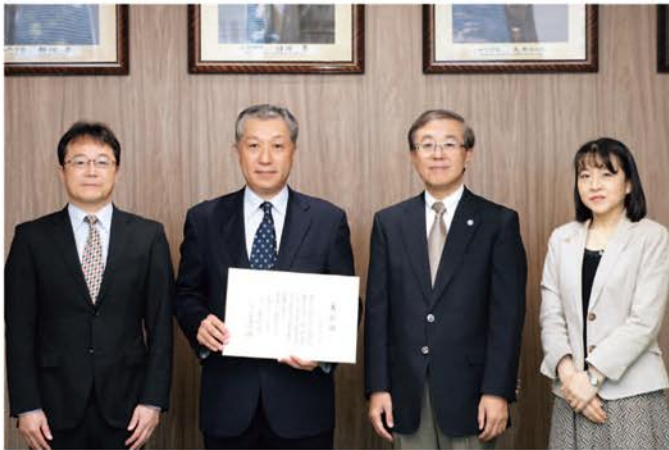
遠藤前学長によるスペシャルキャンパスツアー

## 教育推進機構 小磯重隆 准教授 日本学術振興会より平成28年度 「科研費」審査委員表彰

教育推進機構 小磯重隆 准教授が、独立行政法人日本学術振興会から「平成28年度 日本学術振興会『科研費』審査委員表彰」を受け、平成28年10月18日(火)、佐藤学長から表彰状を手渡されました。

小磯准教授は科研費の審査において、第一段階審査に当たる書面審査を担当しており、今回、模範となる審査意見を付し、学術システム研究センターにより認められました。なお、今回表彰されたのは、書面審査を行った5,700名の審査委員のうち268名です。

表彰式には郡研究担当理事及び伊藤教育推進機構長も列席し、小磯准教授の功績を讃えました。



左から、伊藤教育推進機構長、表彰された小磯准教授、佐藤学長、郡理事

## 「第2回弘前大学附属図書館 POPコンテスト」表彰式を開催

弘前大学附属図書館では、昨年度に続き、図書館の利用促進や読書推進を目的とした第2回POPコンテストを開催しました。今年度は、当館にご寄附をいただいておりますサンライズ産業株式会社様からのご支援により、サンライズ産業(株)賞を新設するとともに、当初の予定より副賞の金額を増額しました。全部で24点の応募があり、作品は全て該当図書とともに館内特設ブースに展示されました。そして、一般利用者を含む図書館利用者からの投票と学内利用者による専用投票Webページからの投票によって、全6作品の入賞を決定しました。

表彰式は11月11日(金)に行われ、大賞を受賞した人文社会科学部1年 佐々木伊吹さんをはじめ、それぞれの受賞者に中根館長から表彰状が手渡されました。また、サンライズ産業(株)賞受賞者である教育学部3年奥寺桜子さんには、サンライズ産業(株)工藤代表取締役から表彰状が授与されました。



中根図書館長(前列左端)と受賞者ら

## 医学部附属病院にて弘前保健 所合同MERS患者受け入れ 訓練を実施

弘前大学医学部附属病院では、平成28年11月14日(月)、弘前保健所と合同で中東呼吸器症候群(MERS)疑似症患者発生を想定した搬送・収容の訓練を行いました。訓練は青森県庁や各保健所、消防事務組合、近隣の関係医療機関の感染制御担当者なども見学する中で行い、患者から保健所への連絡、患者自宅から病院への患者搬送と引き渡し、病院への患者の収容、診察と精密分析検査のための検体採取、検体の保健所への引き渡しという一連の流れを確認しました。

今回の訓練では、訓練をそつなくこなすことではなく、「患者受け入れに際して発生する様々な問題点をはつきりと認識すること」に注意が払われました。訓練後には、他国で発生したMERSの大規模な院内伝搬事例が紹介され、弘前大学医学部附属病院が2類感染症の指定医療機関として、搬入される患者さんは勿論のこと、病院を利用する

全ての患者さんと働く職員にとって安全で快適な環境を提供することの重要性が確認されるとともに、今後の課題などについて活発な意見交換が行われました。



MERS患者受け入れ訓練の様子

## AO入試I合格者の入学前交流プログラムを開催

平成28年12月9日(金)、弘前大学文京町キャンパスにおいて「AO入試I合格者の入学前交流プログラム」を行いました。

このプログラムは、AO入試I入試合格者及びその保護者を対象に、入学前に教員や先輩学生と触れあうことで、大学生活への不安をやわらげるとともに、入学前学習の動機づけにつなげることを目的に行うものです。

当日は、4学部(人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学生命科学部)の合格者の約8割とその保護者、合計約180人の参加がありました。ガイダンスでは、伊藤成治教育担当理事兼副学長のビデオレターによる挨拶の後、①入学前教育プログラム、経済支援など大学全体に共通する内容を扱った全体ガイダンス、②学部毎に、教育課程の概要、入学前の準備学習及び就職関係の説明や教員・先輩学生との交流会、校内見学などを行う学部別ガイダンス、③希望者を対象にした寮見学が行われました。

参加者からは、「先輩との交流がとても良かった」、「入学までの期間を有効に活用していきたい」、「プログラムの円滑に進んで、わかりやすかった」等の声が寄せられ、有意義な一日となりました。



伊藤理事によるビデオレター上映

## 弘前大学・弘前市「国際交流会」及び本学留学生と弘前商工会議所経済人との懇談会を開催

平成28年12月21日(水)、弘前大学所属留学生と弘前市関係者がふれあい相互理解を深めるため、弘前大学創立50周年記念会館において弘前大学・弘前市「国際交流会」が開催されました。

今年度で3回目となる「国際交流会」では、佐藤学長、弘前市ひろさき未来戦略研究センター森岡副所長、吉澤理事(企画担当)の挨拶の後、ハンガリー出身交換留学生バラシシュ・ジータさんのハンガリーのクリスマスソングの独唱、韓国出身交換留学生バン・タムさん、ジョン・ウンジュさん、ユン・オヨンさんの3名による韓国に古くから伝わる伝統芸能である農樂(フンアツ)をアレンジした打楽器演奏「サムルノリ」が披露されました。続いて弘前市関係者と留学生の歓談の後、じゃんけん大会が行われ、勝ち残った留学生たちには弘前大学藤崎農場で作られたりんごジュースや弘前大学Tシャツ、法被が景品として配られるなど、参加した弘前市民と学生たちは相互交流を楽しみ、今年度の国際交流会は盛況のうちに終了しました。

また、同日この会に先駆けて行われた本学留学生と弘前商工会議所経済人との懇談会では、弘前大学留学生と弘前市の企業人が一堂に会し、留学生たちがなぜ留学先として弘前を選んだのか、将来はどういった仕事に就きたいかなどを語り、企業人たちは熱心に聞き入っていました。



打楽器演奏「サムルノリ」の様子

## 人文学部の授業科目で「県知事の特別演習」

平成29年2月9日(木)、弘前大学創立50周年記念会館岩木ホールで、三村申吾青森県知事をお招きした「知事とのチャレンジセミナー」を開催しました。人文学部の授業科目「経済学・法学コース特設講義(自治体政策研究)」が、講義の一環として特別演習を実施したものです。

始めに、三村知事から、県が行う挑戦的政策について講演がありました。近年県内の農林水産業が活性化し所得が伸びていることや、そのための「しかけ」として、青森で収穫後1日以内に、全国と周辺国で販売可能な「物流体制」を開発したこと、これは、民間業者と協力して可能にしたものです。

続いて、学生が自分たちの提案を根拠となる調査や試行を示しながら発表を行い、県の各政策担当者、三村知事の踏み込んだコメントを頂きました。知事は、ときに政策全体に目配りした大所高所から、ときに住民の顔のみえる生活実態からコメントされ、学生は他では得がたい経験をしました。

当該科目の目的の一つが、緻密で大きな議論のできる人材の育成であり、今回の特別演習は、学生が一回り成長するための機会となりました。



三村知事(前列左から4人目)と参加学生ら

## 「弘前大学基金」ご協力のお願い

弘前大学基金は、大学の財政基盤の充実強化を図り、学生支援、教育研究活動等の一層の充実を図ることを目的に平成27年7月に創設いたしました。本学では、本基金を有効に活用し、地域を志向した大学改革を進め、地域活性化の中核的拠点としての本学の姿を確固たるものとし、イノベーション創出と人材育成を通じて地域社会への還元を目指しております。

弘前大学基金は、学生への支援、教育研究活動への支援、国際交流活動への支援、社会貢献活動への支援等、皆様からの寄附金のご支援を募集しております。また、用途を特定した「特定基金」として、『弘前大学修学支援基金』と『学都ひろさき未来基金』がございます。

皆様の格別のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

### 基金の主な事業・目的

- 1. 学生への支援事業**  
学生の修学、就職、課外活動に対する支援等
- 2. 教育研究活動への支援事業**  
教育研究環境の整備充実、地方公共団体等との連携活動に対する支援等
- 3. 国際交流活動への支援事業**  
海外協定大学との学術交流、学生海外派遣、外国人留学生の受入れに対する支援等
- 4. 社会貢献活動への支援事業**  
地域の生涯学習、学生のボランティア活動、地域医療への貢献等に対する支援等
- 5. その他基金の目的達成に必要な事業**  
大学全体に対する支援等

### 【特定基金】

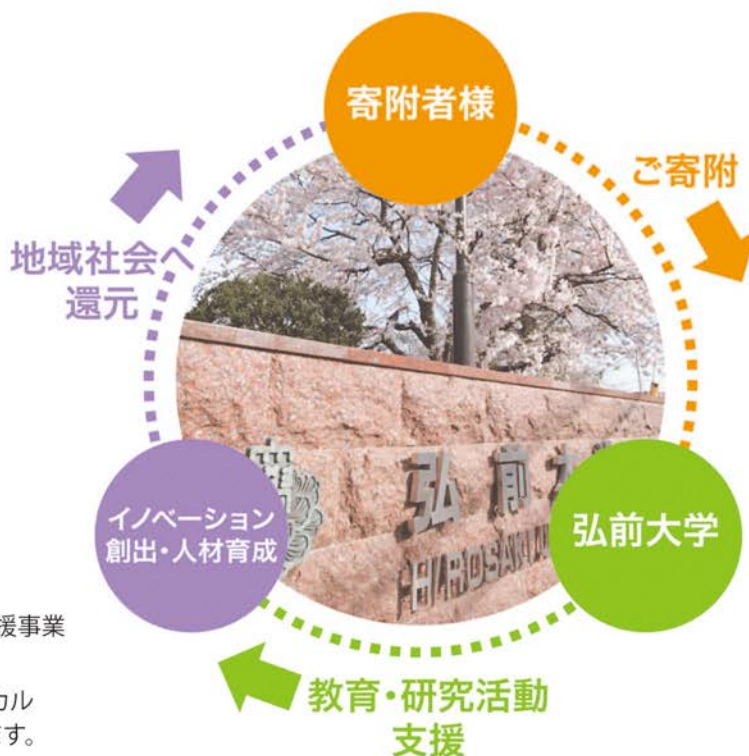
- 6. 弘前大学修学支援基金※**  
経済的理由により修学が困難な学生に対する支援事業
- 7. 学都ひろさき未来基金**  
本学の教育、研究及び社会連携におけるグローバル人材の推進に資することを目的として活用されます。

※税額控除対象事業

詳しくはホームページをご覧ください。携帯電話スマートフォンからも対応可能、右記QRを御利用ください。

弘前大学基金ホームページ <http://fund.hirosaki-u.ac.jp/>

お問い合わせ TEL:0172-39-3034 (弘前大学基金事務局)



### 公式Facebookで情報発信中



<https://www.facebook.com/弘前大学>

「いいね!」で弘前大学とつながろう!



### 公式Twitterはこちら



[https://twitter.com/hirosaki\\_univ](https://twitter.com/hirosaki_univ)

@hirosaki\_univ で検索!



### 弘前大学

#### 『オリジナル風呂敷』

弘前大学オリジナル風呂敷が、弘大カフェで販売中です。「桜」と「こぎん刺し」をモチーフにした2種類のデザインで、濃紫に弘前大学の徽章があしらわれています。



■価格：1枚1,200円(税込)。

■お問い合わせ：弘大カフェ TEL：0172-55-5797  
(営業時間：10時～19時、日曜定休)まで。



ひろたい 028

弘前大学

編集・発行：弘前大学 総務部総務広報課 広報グループ  
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地  
Tel.0172-39-3012 Fax.0172-37-6594  
E-mail : jm3012@hirosaki-u.ac.jp  
公式ホームページ : <http://www.hirosaki-u.ac.jp/>